

# 三井住友海上火災駿河台社ビル、三井住友海上火災駿河台ビル別館

## 1. 概要

三井住友海上火災駿河台社ビルは、お茶の水というイメージが持つ緑・水・坂をテーマにして建物の周辺に新しい視覚的な環境を創りだしています。

これまでの高層ビルが人に立ちほだかるように建っているのに対し、この建物の高層部は足元が大きく吹き抜けていて建物に近づくにつれて感じられる高層ビル特有の圧迫感がありません。

また、高層部の東側、本郷通りから正面のエントランスに至るゆるやかな下り勾配のアプローチは周辺の坂の多い地形が生かされており、建物の周囲や低層部分の屋上に植栽を設けています。

施設名 三井住友海上火災駿河台社ビル、三井住友海上火災駿河台ビル別館

所在地 東京都千代田区神田駿河台3-9

用途 事務所

敷地面積 11,970㎡

建築面積 5,476㎡

延床面積 75,609㎡

階数 地上25階、地下3階、塔屋1階

完成 昭和59年3月



【三井住友海上火災駿河台社ビル、三井住友海上火災駿河台ビル別館】

## 2. 雑用水利用システム概要

### (1) 処理施設概要

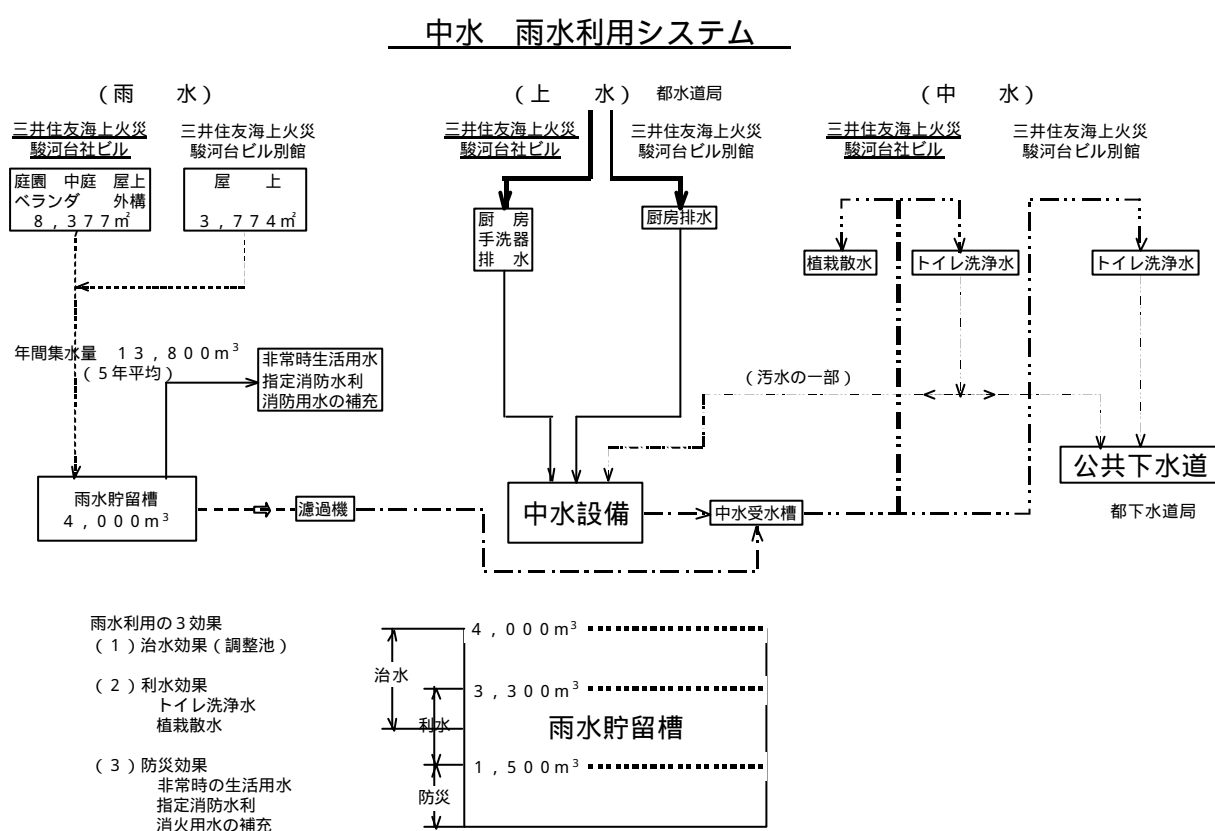
三井住友海上火災駿河台社ビル及び同駿河台ビル別館の2棟を地区循環で結んでいます。雑用水の原水には雨水、雑排水、汚水（一部）の他、一部別館より除害施設通過後の排水を使用しています。また、雨水は建物の屋上からはもちろんのこと、敷地内に降った雨水を全て利用する方式となっています。

緑地部分に降った雨水は土を通過した後に採集するため、ろ過されていると同様の水質となっている他、タイル部分に降った雨水はタイルの間のヘイマロン（繊維状の物質）を通過して採集されるため、ごみ等は取り除かれた状態となっています。なお、雨水ろ過用のヘイマロンは2年に1回取り替えています。

- ・雨水導入面積 12,000㎡
- ・処理プロセス (スクリーン) (生物) (膜) (活性炭)

再生処理水はトイレの洗浄及び植栽への散水に利用しています。  
処理方式は十分に水質をクリアするものとなっており、設備には優しく、故障もありません。  
また、雨水の利用量が多いため、上水補給は行っておりません。

(2) 雑用水利用の流れ



(3) 再生処理水の利用



植栽



植栽に散水する設備



正面エントランスの緩やかなカーブ